

特定の取組・計画等の評価方法について（案）

（１）国立大学法人評価委員会の要請への対応

① 戦略性が高く意欲的な目標・計画等

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人の第２期中期目標期間の業務実績評価に係る実施要領」（平成 23 年 10 月 27 日文部科学省国立大学法人評価委員会決定）（抜粋）

１．概要

- ・ 各法人の質的向上を促す観点から、戦略性が高く意欲的な目標・計画等は、達成状況の他にプロセスや内容を評価する等、積極的な取組として適切に評価する。

《評価の方向性》

- 文部科学省国立大学法人評価委員会が実施した平成 23 年度評価において、「戦略性が高く意欲的な目標・計画等」が抽出されたことから、教育研究の状況の評価においても、国立大学法人評価委員会が抽出した目標・計画等を「戦略性が高く意欲的な目標・計画等」とする。

各法人は、実績報告書において、「戦略性が高く意欲的な目標・計画等」の取組状況を必ず記述することとする。

- 評価者は、「戦略性が高く意欲的な目標・計画等」について、中期計画の段階判定において、達成状況の他に、当該計画実行のプロセスや成果の内容を踏まえつつ、積極的に評価する。計画どおり実施できていない場合においても、教育研究の質の向上や高い教育研究水準が確認できる場合は、「不十分」とは判定しない。

- 評価者及び法人双方の共通理解を図るため、上記の取扱いを「中期計画に係る段階判定の考え方」に明記する。

戦略性が高く意欲的な目標・計画等の達成状況報告書記述例

【事例 1】

中期計画 X-X-X-X 「国際化を一層推進するため、質の確保に留意しつつ、全学生数に対する外国人留学生の比率を 20%以上とする。」に係る状況

(実施状況) 国際化に向けて、英語のみによる学位取得が可能なコースを〇〇学部、△△学部、～～計 20 コース設置し、これらのコースにより 6 年間で延べ外国人留学生〇名、日本人学生〇名が学位を取得した。また、新たに〇〇地区に外国人学生宿舎を整備し、～～実施するなど、受入体制も充実させた。さらに、海外で留学説明会を～～実施し、また、海外で入学試験を～～実施するなど、積極的に外国人留学生の受入促進に向けて取り組んだ。その結果、全学生数に対する外国人留学生の比率が 5 % (平成 21 年度) から 18% (平成 27 年度) となった。

(判定) 「実施状況が良好である」

(判断理由) 様々な外国人留学生受入促進・支援に係る取組を実施した結果、外国人留学生受入の比率が 5 % から 18% と大きく増加した。この数値は当初目標とした数値にはわずかに及ばないものの、この増加率は全国の外国人留学生の増加率 (〇%) を大きく上回っている。したがって、中期計画を概ね達成し、優れた成果が上がっているため、達成状況は良好であると判断する。

「戦略性が高く意欲的な目標・計画等」の
取組状況を必ず記述

計画どおり実施できていない場合、教育研究の
質の向上や高い教育研究水準の実現の状況を踏
まえて判断理由を記述

【事例 2】

中期計画 Y-Y-Y-Y 「文系・理系の各分野間の連携・融合を図りながら、社会的要請の高い「〇〇〇〇〇〇」に関して、研究教育拠点の形成を目指し、プロジェクト研究を推進する。」に係る状況

(実施状況) 生命科学、心理学、〇〇〇学、△△△学、□□□学、×××学、▽▽▽学、◇◇◇学等の各分野で実績を挙げてきた経験を結合し、分野横断的視点に立って「〇〇〇〇〇〇」のメカニズムを解明しようとするプロジェクト研究「△△△△△△」を平成〇年度から開始した。平成〇年度にはグローバル COE プログラムに採択され、平成〇年度に～～～～～の成果を含む複数の研究論文が国際的学術誌「××××××」、「▽▽▽▽▽▽」に掲載され、それぞれ～～～～～の点が高く評価されている。

(判定) 「実施状況が良好である」

(判断理由) 当該研究テーマは国際的にも高く注目されており、当該研究において最先端の研究を推進している欧米の研究機関 (〇〇〇〇、△△△△、□□□□) においても同様の研究プロジェクトが進められている。プロジェクトが開始されて、数年しか経過していないために、新たな研究教育拠点の形成に向けた十分な成果を挙げるまでには至っていないが、外部資金の獲得につながるとともに、複数の研究論文を発表し、それぞれ国際的に非常に高く評価されている。したがって、計画どおり実施できてはいないが、高い教育研究水準を実現し、優れた成果が上がっているため、実施状況は良好であると判断する。

②世界的な高水準の達成や国際的な競争力の向上

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人の第2期中期目標期間の業務実績評価に係る実施要領」（平成23年10月27日文部科学省国立大学法人評価委員会決定）（抜粋）

ア. 大学評価・学位授与機構が行う評価

- ・ 「教育研究等の質の向上」に係る中期目標の達成状況を評価するために必要な評価方法、評価項目、評価基準、評価の裏付けとする基礎資料の内容等は、機構が別に定める。その際、教育研究の特性を踏まえつつ、各法人の目的によっては、教育研究の成果が、世界的な高水準の達成や国際的な競争力の向上を目指す観点から、適正に評価するよう配慮する。

《評価の方向性》

- 教育研究の成果について、
 - ・ 国際的な視点から判断して極めて高い教育研究水準の実現が認められる場合
 - ・ 第1期末と比較して、教育研究の大きな質の向上が認められる場合
には、中期計画の段階判定において、「非常に優れている」と判定することとする。
- 評価者及び法人双方の共通理解を図るため、上記の取扱いを「中期計画に係る段階判定の考え方」に明記する。

（２）「実施要項」の改定に伴う対応

①個性の伸長に向けた取組

（これまでの決定事項等）

- 検証アンケートでは、８割を超える法人が、第２期の評価について、「大学等の個性の伸長に、より寄与」するものとするべきと回答している。
- これを踏まえ、第２期では、さらに法人の特徴や個性の伸長に向けた取組を捉えた評価を行うため、実績報告書に「個性の伸長に向けた取組」欄を新設した。

《評価の方向性》

- 法人は、「個性の伸長に向けた取組」欄において、取組の内容等とともに、特に関連する中期計画の番号を必ず記述するとともに、該当する中期計画の自己分析・判定に当たり、当該計画の実施によって、どのような個性がどのように伸長したのかを必ず記述することとする。
- 評価者は、該当計画の成果が個性の伸長に大きく寄与していると判断される場合、中期計画の段階判定において、「非常に優れている」と判定する。
- 評価者及び法人双方の共通理解を図るため、上記の取扱いを「中期計画に係る段階判定の考え方」に明記する。

②東日本大震災からの復旧・復興に向けた取組等

(これまでの決定事項等)

- 第2期においては、東日本大震災からの復旧・復興への貢献・支援活動等について、新たに「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄を新設し、顕著な取組が見られると判断される場合には特記することとした。

《評価の方向性》

- 評価者は、「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄に記述された取組について、顕著な取組がみられると判断される場合に特記事項として抽出するのみとする。

- 「復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組」の特記事項への抽出のため、「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」に係る特記事項の抽出基準を別途作成する。

個性の伸長に向けた取組、東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等の達成状況報告書記述例

達成状況報告書

I 法人の特徴

本学は〜〜〜として発足し、〜〜〜を擁する総合大学である。

建学以来〜〜〜の歴史と実績を重ねており、世界に通ずる高度な専門職業人を育成し、我が国の学術及び社会・経済・文化の発展に大きく貢献している。

また、国際性を備えた高度専門職業人教育をいっそう推進するため、〜〜〜分野の組織の再編・統合を行い、〜〜〜を設置し、〜〜〜に重点的に取り組んでいる。

さらに、グローバル化する知識基盤社会発展のため、〜〜を〜〜へ再編し、〜〜を推進している。

・
・
・

中期目標に記載した「大学の基本的な目標」や上記「法人の特徴」を踏まえ、自らが考える法人の個性の伸長に向けた主体的な取組の概要を記述

【個性の伸長に向けた取組】

- 企業家精神を備えた高度な専門知識を有する職業人を育成するため、少人数教育を重視した授業科目を充実させている。さらに、企業等と連携したインターンシップや実務家と担当教員一体となった実践的教育科目も多数配置するなど、特色のある教育プログラムを展開している。

(関連する中期計画) 計画番号 X-X-X-X、X-Y-Y-Y

- グローバル化に対応した人材を育成するため、2週間～3カ月の短期での海外交流プログラムを充実させている。これらのプログラムは、語学研修プログラム、異文化交流プログラム、専門分野の集中プログラム、海外インターンシッププログラムと多岐にわたっており、プログラム修了状況による単位認定基準を整備し、積極的な受講を促している。

(関連する中期計画) 計画番号 Z-Z-Z-Z

- 〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

・
・

末尾に関連する中期計画番号を記載

東日本大震災からの復旧・復興への貢献・支援活動等の内容を記述

【東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等】

- 東日本大震災からの復旧・復興へ全学的に取り組むための「〇〇〇プログラム」を策定し、〜〜〜するなど、教育研究知見を活かした組織的取組を展開するとともに、△△△機構と〜〜〜に関する共同調査を実施し、〜〜〜を重点的に〜〜〜することにより、〜〜〜を活用した地域再生計画と地域循環型の新エネルギー政策を提案している。

- 東日本大震災からの復旧・復興へ向け、大学独自に募った学生ボランティアを派遣するだけでなく、地域のNPOとの連絡会議を設け、〜〜〜等の活動を通じて学生のより主体的な活動を促進し、地域における災害ボランティア活動の活性化を図っている。

・

中期計画番号の記載は不要

第2期中期目標期間の中期計画に係る段階判定の考え方

判定	左記と判断する基準
非常に優れている 【新設】	○次の2つの条件を満たす場合 1. 計画が実施されている 2. 計画を実施した結果、 得られた成果が特筆すべきもの※ である ※「特筆すべき成果」とは、以下のいずれかまたは複数に該当する場合を指す ① 教育研究の大きな質の向上 ② 国際的な視点から判断して極めて高い教育研究水準の実現 ③ 個性の伸長への大きな寄与
良好	○次の2つの条件を満たす場合 1. 計画が実施されている 2. 計画を実施した結果、得られた成果が優れている
おおむね良好 【標準】	○次の2つの条件を満たす場合 1. 計画が実施されている 2. 計画を実施した結果、得られた成果が相応である
不十分	○次のいずれかに該当する場合 1. 計画の実施状況が不十分である 2. 計画は実施されているが、得られた成果が不十分である

【留意事項】

判断に当たり、戦略性が高く意欲的な計画については、計画どおり実施できていない場合においても、教育研究の質の向上や高い教育研究水準の実現が確認できる場合には、プロセスや内容等を考慮し、判定を行う。

(参考)

第1期中期目標期間の中期計画に係る段階判定の考え方

判定	左記と判断する基準
良好	○次の2つの条件を満たす場合 1. 計画が実施されている 2. 計画を実施した結果、得られた成果が優れている
おおむね良好 【標準】	○次の2つの条件を満たす場合 1. 計画が実施されている 2. 計画を実施した結果、得られた成果が相応である
不十分	○次のいずれかに該当する場合 1. 計画の実施状況が不十分である 2. 計画は実施されているが、得られた成果が不十分である

※ 第1期は3段階判定。留意事項は設けていない。